

特集 いま、自治会

巻頭対談

開成町長

府川 裕一

開成町自治会長
連絡協議会長

辻村 昌美



開成町自治会長連絡協議会
会長 辻村 昌美

「個性豊かな自治会」

町長 自治会は、暮らしの中での重要な役割を担っています。開成町の人口が増加している理由の一つとして、地域のつながりが強いことが挙げられます。子育てや防災など、地域での支え合いは暮らしの中でもとても大切です。

辻村 私の住む下鳥地区は、特に転入者の多い地域です。たくさんの方々に新たに自治会に加入していただいています。

町長 開成町は町制施行以来60年にわたり人口が増え続けてきました。町に住んでいただく方が増えているのは大変うれしいことです。開成町には移り住まれた方を温か

く迎える風土があり、地域で支え合い、助け合う空気があるのではないのでしょうか。それが、自治会加入率約80%という数字に表れていると思います。

いざという時、近くに相談できる方がいることが大きな安心につながります。

辻村 そうですね。そういった地域のつながり―絆づくりの場として、自治会が重要だと思っています。インターネットや雑誌などにはない、生きた情報が自治会にはあると思います。自治会には様々な立場の方がいるので、新たな絆が数多く生まれるのではないのでしょうか。

町長 町には13の自治会があります。それぞれに地域性があり、その一つひとつが本当に個性豊かです。

辻村 そうですね。私も自治会長連絡協議会長を務めさせていただいていますが、本当にそれぞれの自治会が生き生きとしています。阿波おどりははじめ、自治会対抗のスポーツ大会や夏祭りなど、自治会ごとに一致団結できる取組みが町にはたくさんありますね。

町長 最近では若い方が活躍されて、自治会が一層盛り上がってきているように思います。こういった取組み

◆略歴◆

長年にわたり勤務された会社を退職後故郷の開成町に戻り、地域活動に参加。平成25年4月下鳥自治会長就任（現在2期4年目）平成27年4月開成町自治会長連絡協議会長に就任され、協働のまちづくり推進に尽力。

を通して地域の輪が広がり、顔の見える関係になっていくと思います。
辻村 何かあった時はやはり助け合わなければなりません。そのために、普段から顔のわかる関係づくりが大事になってくるのだと思います。

「地域の課題に向き合い」

町長 近年、子ども会の加入率の減少が課題となっています。子ども会は、保護者や地域にとってとても大切な存在ですが、近隣には子ども会をなくした自治体もあると聞きます。下鳥自治会では、自治会組織に編入し、自治会として子ども会を支援

していく取組みを始めたそうですね。
辻村 はい。下鳥自治会では、子ども会を自治会の組織の一つとして位置づけました。そうすることで、自治会と子ども会、別々に入会していたこれまでの手続きが一元化できます。また、子ども会は、主に自治会の単位で構成されており、自治会と子ども会が同時に集まる催しが数多くあります。それを一つにすることで、自治会に入っているけれど、子ども会には入っていない、そういった世帯をフォローできるのではないかと思います。

のではなく、ともに子どもたちを見守っていくよう考えました。
町長 地域の子どものつながりをつくり、年齢の違う子どもたちが関わりを持つことで、社会性が育まれます。同級生はもちろん、近所のお姉さん、お兄さんにかわいがってもらったことは、大人になっても忘れません。自治会も、子ども会も目的は同じです。今までもお互いに協力・連携して成り立ってきたところですが、時代とともに、多様な在り方があってもよいのかもしれない。それぞれの自治会に合った方法で取り組んでいただければよいと思っています。

辻村 下鳥自治会は、今回こういった取組みを始めましたが、それぞれの自治会でこういった地域の課題について話し合うということが、ますます大切だと思います。
町長 自分たちの住んでいる地域の課題や将来のことを考えるよききっかけになってほしいです。本日はありがとうございます。

辻村 ありがとうございます。これからも自治会と町が協働して、さらに住み良いまちづくりを進めていきたいと思います。

開成町には 地域で支え合い、 助け合う 空気がある。

―町長



開成町長 府川 裕一



自治会館は憩いの場